

ポストコロナ時代のオープンキャンパス -オンライン開催の実態と効果についての一考察-

Open Campus in Post COVID-19 World

小勝 健一 OGATSU Kenichi

デジタルハリウッド大学 入試広報グループマネージャー
Digital Hollywood University, Manager of Admission Office

藤ノ木 有沙 FUJINOKI Arisa

デジタルハリウッド大学 入試広報グループ
Digital Hollywood University, Admission Office

新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の感染拡大に伴い、日本全国の大学は2020年3月頃より、オープンキャンパスをはじめとするオフラインでの募集イベントの中止を余儀なくされた。デジタルハリウッド大学ではそうした状況を早期に見据え、3月29日開催の「春のオープンキャンパス2020」をオンラインイベントとして実施した。本稿ではオンライン開催に至るまでのプロセスや準備、当日の様子などについて紹介するとともに、本学のアドミッション・ポリシーとも関連づけながら、ポストコロナ時代における受験生とのコミュニケーションのあり方について考察する。

キーワード：学生募集、オープンキャンパス、COVID-19、オンライン対応

1. はじめに

1.1 COVID-19の発生とオープンキャンパスのオンライン化

新型コロナウイルス感染症 (以下、COVID-19) の発生は、2020年2月27日に政府が発表した臨時休校を端緒に、日本全国にさまざまな社会経済的な影響をもたらしている。著者らが務める入試広報ならびに大学の募集戦略においても影響は大きく、その最たるものがオープンキャンパスである。

オープンキャンパスとは、各学校が入学検討者に対して施設内を公開し、体験授業や教職員や在学生との交流を通じて学校への関心を深めることを目的とする入学促進イベントである。1990年代後半頃から一般化され、受験生の間に浸透した。近年では保護者同伴で参加するケースも多く、学生募集の柱のひとつとなっている。

多くの大学では3月後半の春休み頃に新高校3年生を対象としたオープンキャンパス (以下、春OC) を実施している。しかし2020年、COVID-19の発生により臨時休校措置が取られ、卒業式をはじめとした学内行事が縮小ないし中止される中、各大学は春OCの開催中止を余儀なくされた。本稿執筆時の2020年7月現在も多くの大学で従来通りのいわゆる「オフライン (学校見学会)」のオープンキャンパスは開催が見送られている。

デジタルハリウッド大学 (以下「本学」) ではそうした状況を早期に見据え、3月29日開催の「春のオープンキャンパス2020」を完全オンラインで開催した。本学は映像分野を含めたデジタルスキル全般を学べる大学であり、在学生ならびに教職員にはライブ中継やオンラインイベントに関する知識を持つ者が多い。そのため、オフライン開催時に行われた大学概要や入試説明を動画にするといった手法ではなく、リアルタイム中継によるエンタテインメント性の高いイベント作りを目指した。

本稿ではオンライン開催に至るまでのプロセスや準備、当日の様子などについて紹介するとともに、本学のアドミッション・ポリシーとも関連づけながら、ポストコロナ時代における受験生とのコミュニケーションのあり方について考察する。

2. 春のオープンキャンパス2020

2.1 イベント概要

春OCは、高校2年生の3月に志望校を決定している意識の高い

層へのアプローチを狙うイベントとして2016年より実施している。5年目となる2020年3月29日開催の「春のオープンキャンパス2020」は初のオンラインイベントとなった。

本イベントの参加者は2021年度受験となる新高校3年生限定である。本学を第一志望とする高校生へ向けてプログラムを構成した。第1部では「これからの未来に必要な学びとは」をテーマに、本学学長杉山知之より学長講演を実施。第2部は「在学生が語るDHU」と題して、DHU生3名×杉山学長のクロストークを行った。そして第3部では入試改革元年となる2021年度入試の概要を初公開した。目玉として本学独自の選抜方式であるオースタム・トライアウト総合型選抜の実施要項を発表した。

イベントの合間には在学生による会場レポート、YouTube Liveのコメント欄やTwitterやInstagramと連動した質問コーナー、キーワードクイズなどを企画した。

また本イベントの場内装飾はコンセプトから企画まで在学生が手掛けた。「人生時計」をテーマに、黄色い輪と時計をモチーフにイベント会場を飾り付けた。

さらにオンライン開催にあたり最も重要となったライブ中継は本学卒業生であり、本学大学院へと進学した在学生 (NOAH NAME) が担当した。8名のチームメンバーには本学の在学生も加わり、テレビの生中継さながらの高品質な映像コンテンツとなった。

2.2 オンライン開催への変更

オフライン (来校型) からオンライン開催への変更を発表したのはイベント12日前の3月17日である。構成やメインビジュアル、場内装飾の準備を進めながら、2時間半のライブ中継を飽きずに視聴してもらうためのコンテンツを企画・検討した。

まず1つ目が在学生による会場レポートだ。開演前、休憩中、そしてクロージング後に時間を設け、それぞれテイストの異なるレポートを実施した。開演前には当日のイベントの流れや特別企画の案内を伝えた。休憩中には当日の会場である本学駿河台キャンパスまでの道程を在学生レポーターとカメラマンが移動しながら中継した。動きがあるのでカメラワークや立ち位置は何度もリハーサルを行った。そしてクロージング後には質問コーナーを設けた。YouTube LiveやTwitterへ寄せられた質問に在学生2名、事務局スタッフ1名が答えた。

2つ目はキーワードクイズである。イベント内で発表される3つのキーワードを集めてアンケートに回答するとDHUオリジナルグッズが当たるといったものだ。キーワードは第1部の間、休憩中、質問コーナー終盤に、在学生レポーターが発表を行った。

また配信全体の流れを円滑に進めるために最も重要な作業が台本作りである。配信10分前から配信終了までの流れを分単位で設定し、流れはもちろん、スイッチング(画面切り替え)のタイミングやテロップの有無、BGM切り替えなどをまとめた。イベント前日のリハーサルで内容が変更となる場面もあった。

2.3 当日の様子

イベント当日のスケジュールは表1の通りである。

表1：春 OC2020 イベントスケジュール

時間	項目	内容
10:00-12:00	リハーサル	カメラ、照明、演者の入退場等の最終調整
12:55	開演直前レポート	在学生レポーターによるイベント案内
13:00-14:00	第1部	開演ガイダンス、杉山学長による講演、大学説明
14:00-14:10	休憩：会場レポート	在学生レポーターによるキャンパス案内
14:10-14:40	第2部	在学生3名と杉山学長によるトークセッション
14:40-14:50	休憩：会場レポート	登壇した在学生へのインタビュー
14:50-15:30	第3部	2021年度入試概要

イベント当日、外には雪が舞う中、朝10時から全体リハーサルを開始した。画面切り替えやタイミングが難しい部分は何度も確認作業を行い時間が許す限りカメラ位置や照明の調整をした。スタッフ、在学生一丸となって本番に備えた。



図1：ライブ配信の様子

12時50分から配信を開始し、55分から在学生レポーターによる開演直前レポートを行った。実際にノベルティとしてプレゼントするトートバッグを見せながらレポートすることで参加者の気分を高めた。



図2：開演直前レポート

13時からは事務局スタッフ2名が登壇し開演ガイダンスを行った。その後、第1部の学長講演がスタート。これからの時代はこうあるべき、と提唱できるような人を育てるというのがデジタルハリウッド大学の役目だと説いた。学長講演終了後には本学キャリアセンター内で待機する在学生レポーターより、1つ目のキーワードクイズが発表された。その後20分程度で大学説明を行い、第1部は終了した。この時点で台本から10分ほど遅れが出ていた。

休憩中は在学生による会場レポートを実施した。場内装飾を手掛けた在学生インタビューや学生作品の紹介、配信チームに意気込みを語ってもらった。終盤には2つ目のキーワードクイズを発表した。

14時10分から第2部が開演。「在学生が語るDHU」と題し、在学生3名と学長によるクロストークを行った。予め7つのトークテーマを用意し、それぞれ個性あるエピソードを語った。



図3：第2部「在学生が語るDHU」

第2部終了後は、キャリアセンターで待機していた在学生レポーターによる、登壇在学生へのインタビューを行った。3名とも「緊張したけど楽しかった」と語った。

第3部は本イベントの目玉である2021年度入試の概要を初公開した。各選抜のラインアップを紹介後、本学独自の選抜方式であるオタム・トライアウト総合型選抜の実施要項を発表した。第3部終了後、アンケートや2021年度入試の検定料を減額する検定料減免証の案内を行った。

全体終了後、キャリアセンター内の在学生に入試事務局のスタッフが加わり質問コーナーを実施。YouTube Live、Twitter、Instagramに寄せられた質問に在学生、事務局それぞれの目線から回答していった。今回YouTube LiveやTwitterには質問が寄せられたが、Instagramには投稿がなかった。質問回答後、キーワードクイズ3つ目を発表し、15時30分頃に配信が終了した。

3. 結果と考察

3.1 数値（視聴者数等）

「春のオープンキャンパス2020」はオフラインを想定していた際の予約数122件に加え、オンライン開催発表後85件増加し、総予約数は207件であった（重複予約、保護者、内部社員除く）。来場者数は最高視聴者数とし、前年比181.7%である238となった。

表2：「春のオープンキャンパス」数値

開催年	予約	来場者	アンケート
2020	207	238	148
2019	136	131	117

またアンケートは参加者の中の148名から回答を得ることができた。満足度はとても高く、他大学では軒並みオープンキャンパスが中止となる中、早々にオンライン開催へと切り替えた点への評価が高かった。下記は実際にオープンキャンパスの感想をアンケート内で回答いただいた内容である。

- ・ 自宅で両親と意見を交わしながらゆっくり見ることができて、このような形のオープンキャンパスも良いなと思いました。(千葉)
- ・ コロナの影響でオープンキャンパスが中止になる中、すぐに対応されていて、なおさら興味が湧きました。雰囲気がとても良かったです。(東京)
- ・ 大学案内を見ている時よりもワクワク感が何倍にも膨れ上がりました。(静岡)
- ・ 校内の雰囲気もとても伝わり、分かりやすい説明で、ネットではなく、本当に学校へ見学している気分でした。(東京)
- ・ オンラインの開講だったのに学校、学生の雰囲気が伝わってきてとても楽しい配信でした!(埼玉)

アンケート回収率は62.1%と前年より27.2ポイント減少した。プレゼント企画や検定料減免証などの特典があってもオンラインでは回答を集めることが難しく、オンライン開催での課題であると感じた。

3.2 オンラインOCのメリットとデメリット

従来の来校型イベントとの比較から、オンラインOCのメリットとデメリットについて考察する。

メリットは(a) 遠方の受験生も気軽に参加できる、(b) 自宅で保護者と一緒に視聴できる、(c) 人数制限が不要、などが挙げられる。特に(b)については上記アンケートにもあるように、従来であれば来場していなかったであろう保護者にも、本学のカリキュラムや入試制度の説明を直接届けることができた。

デメリットは(a) 誰が参加しているかわからない、(b) 来場の歩留まりが読みにくい、(d) 受験生と1to1のコミュニケーションが取れない、といった点がある。学生募集という営業面を考えると、(a) (b) (c) いずれの要素も来校型イベントに比べると工夫が必要な部分である。

こうしたデメリット解消のため、本学では春OC以降、オンラインでの個別面談やYouTube等のコメント欄を活用した体験授業、アンケート記入者への特典付与などオンラインならではの双方向性や同時性を活かした試みを加えていった。

4. まとめ

2020年4月の緊急事態宣言発令の前後から、他の大学でもオンラインでのオープンキャンパス開催が増えていった。例えば近畿大学では、3月22日開催予定だったオフラインのオープンキャンパスの中止を早々に発表していたが、開催5日前の3月17日に急遽オン

ライン開催を発表し、YouTube Liveとインスタライブを用いたイベントを実施した。その後も多くの大学がさまざまなオンラインツールを用いて、入学検討者との接触を試みている。

本学では「春のオープンキャンパス2020」のノウハウと経験を活かしながら、「初夏のオープンキャンパス2020(5月～6月実施)」「夏のオープンキャンパス2020(7月～8月実施)」でもオンラインでのライブ中継を実施している。YouTube Liveを主とし、実際の大学の講義同様にZoomを用いた体験授業、グリーンバックを用いた撮影、プレゼントクイズなど、インタラクティブなイベント運営に務めている。中継テーマを「お茶の間」「ニュース番組風」「ラジオの公開放送」などと定め、視聴者を飽きさせない工夫を続けている。



図4：「初夏のオープンキャンパス2020」5/17 休憩中の様子



図5：「夏のオープンキャンパス2020」7/19の様子

JSコーポレーションの調査によると、「あなたは『オンラインのオープンキャンパス』に参加したいと思いますか?」という質問に対して「すでに参加したことがある」と回答した高校生は、2020年7月時点でわずか13.7%である。本学のオンラインオープンキャンパスへの参加者のうち、およそ1/3を「2回目以降の参加者」が占めており、オンラインでのオープンキャンパスにまだ参加したことがない高校生が多くいることの証左でもある。

COVID-19を巡る厳しい状況はしばらく続くことを念頭に、本学ではポストコロナ時代の学生募集のあり方について引き続き検討を重ねていく所存である。

参考文献

- [1] デジタルハリウッド大学：「春のオープンキャンパス2020開催レポート」 <https://www.dhw.ac.jp/news/springoc2020/> (参照2020年7月27日)。
- [2] 近畿大学：「新型コロナウイルス対策としてWEBオープンキャンパスを開催 特別プログラムをインターネットで生配信」 <https://www.kindai.ac.jp/news-pr/news-release/2020/03/019609.html> (参照2020年7月27日)。
- [3] JSコーポレーション：『日本の学校 コロナ対応／緊急アンケート5月6月7月調査結果比較(高校生)』メールマガジン(2020年7月27日配信)。